

令和7年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	学校像	生徒一人一人がその能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し、意欲的、主体的に社会参加していくことができる人間を育成する。 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	目指すべき取組の概要	I 就労による自立を目指す生徒の育成に必要な資質の向上 ・生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上 II 職業生活に必要な力の育成 ・生徒一人一人のニーズに応じた職業教育を系統的に実施し、将来の職業生活や社会生活に必要な力の育成 III 地域貢献の推進 ・地域における清掃活動やボランティア活動等貢献活動を通して、働くことの意義の確認し生徒の自己肯定感・自己有用感の高揚 IV 働き方改革 ・ワーク・ライフバランスを考えた健康で活性化された職場づくり V 不祥事防止に向けた取組 ・教職員の倫理観の堅持 ・不祥事防止対策の徹底 ・よりよい職場風土づくり
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子どもたちを誰一人取り残さない、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「高知家」の教育・学びの充実に向けた各種施策を総合的・計画的に推進するために、必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備	児童生徒像	「明るくたくましく生き抜く力をもった生徒を育てる」 ① 自己決定できる生徒(見つけよう！なりたい自分) ② 自ら就労を目指す生徒 ③ 生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ④ 地域と連携し、貢献できる生徒		

《重点取組項目》 (評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目		取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価		見直しのポイント【A】	
教育・専門性の向上・充実	就労による自立を旨とする生徒の育成に必要な資質の向上	生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上を目指す。	【現状】 ①全教職員が企業就労や福祉的就労について、基礎的な知識は身に付けることができたが、さらに専門的知識を身に付けるために継続して研修を深めていく必要がある。また、生徒たちのより充実した進路先を決定するためにも保護者への学習会を行う必要があると思われる。 ②職業科(作業学習)等におけるキャリア教育の視点を踏まえた更なる授業改善に取り組む必要がある。 ③心身面に課題があり、精神面での弱さや不登校傾向のある生徒が増加してきている。 ④より適切な自立活動を行う必要がある。 ⑤各授業でのICT活用及び教材づくりは進んでおり、Chromebookの活用もできつつある。教職員間での情報共有はまだ充分にはできていない。 【評価指標】 ①進路指導の基礎に関する理解 ・全教職員が、生徒・保護者に進路先への手続等について説明できるようになる。 ②キャリア教育の視点に基づいた授業づくり・授業改善 ・職業科(作業学習)において、重点的に取り組む。 ③不登校傾向・登校渋りの解消・低減 ・生徒、保護者への適切な支援に取り組む。 ④個々の実態に応じた自立活動の授業改善 ・自立活動の充実に取り組む。 ⑤ICT機器(Chromebookや電子黒板等)の有効活用 ・生徒間のコラボレーションを意識した授業づくり	①教職員及び保護者対象に進路学習会を開催する。 ②職業科(作業学習)内容のブラッシュアップに努める。また、「キャリア教育戦略会議」を開催し、一般企業等からの助言をいただく。今年度は、万々商店街にも声を掛け参加をお願いする。 ③生徒の現状を教師間で共有し、学校全体で支援方法を検討していくとともに、SC、SSWとの連携を図りながら、生徒や家庭への継続的な支援を行うことで、不登校傾向や登校渋りの解消又は低減を図っていく。 ④教職員全体で自立活動の見直しを行う。 ⑤今後もChromebook内のアプリケーションソフト(FigJam,Spreadsheet等)を有効に活用し、生徒の発信力や分析能力、課題解決能力の向上を目指す授業を行っていく。また、教師のICT機器活用能力の向上のために、GIGAスクールサポーターによる授業参観を依頼し、授業でのICT活用へつなげる学習会を定期的に開催する。	A ①転入教員対象に、企業就労や福祉的就労に係る学習会を開催した。「就労選択支援」制度が10月施行されるため、進路担当者等が研修会に参加。3学期に教員対象に研修会を実施する予定 B ②「キャリア教育戦略会議」に向け、5月に中小企業家同友会事務局を訪問し、協力依頼を実施済。その他企業・事業所等への協力依頼は今後行う予定 ③SC、SSWと積極的に連携している。不登校生徒の対応は継続中。SC講演会を8月に実施済 ④生徒の実態把握から効果的な指導について検討中。高知大学教授等を講師に、校内研修会を実施(年5回のうち3回実施済) ⑤県のGIGAスクールサポーターを活用し、情報機器の積極的な活用を促している。8月ICT研修会(FigJam講習会)を開催済	①保護者対象のPTA視察研修を9/24(水)に実施予定。また、3学期に教員対象に「就労選択支援」制度に関する研修会を実施する予定 ②「キャリア教育戦力会議」の2学期実施に向けて調整を行う。 ③引き続き、SC、SSWと連携を行い、役割に応じた生徒支援につなげていく。不登校生徒に対しては、SSW面談を通して、徐々に卒業に向けた登校への意欲喚起につなげる。 ④引き続き、研修や校内での振り返り等において、着実な指導力の向上を図っていく。 ⑤継続して県のGIGAスクールサポーターを活用しながら教職員のChromeBook等の活用方法のスキルアップを目指す。また、授業での活用方法の情報共有を行う。					
			職業生活に必要な力の育成	【現状】 ①生徒の希望する就労先への就労はほぼできている。一般就労率の目標は達成することはできなかった。また、今後とも定着率を向上させるためにもアフターケアを充実させることが必要である。 ②JSP制度の活用により、2事業所・1専門学校から専門家の派遣を受け、生徒の職業能力の向上に資することができる。 ③現場実習後に事業所からの評価を受け、生徒自身が次の目標(ステップ)を設定し、その目標を達成するための「ステップアップシート」の活用ができている。 ④これからの社会生活において、異文化や異人種の理解をすすめる国際理解力の育成が必要である。 ⑤余暇活動については、陸上競技等についてはつなげることができているが、学校全体ではまだ取り組むことができていない。 【評価指標】 ①希望進路の100%確定(一般就労率を80%)及び離職率の低減 ・実習・進路先の確保(新規開拓)及び情報提供 ・アフターケアの適切な実施 ②生徒の職業能力(知識・技能等)の向上・維持 ・職業科(作業学習)の授業改善(専門家からの助言) ・技能検定:1級取得15名以上、アビリンピック入賞:5名以上 ③ステップアップシートの有効活用 ・学級と作業班の情報共有及び指導体制の確立 ・ステップアップシートの利便性の向上(シート改良) ・開示シートによる情報共有(生徒・保護者) ④SDGs等の視点を取り入れた授業づくり(各教科等) ・環境教育、国際理解教育への取組 ⑤余暇活動についての意識調査 ・アンケート調査を実施	①就職アドバイザーとの連携により、新規の実習・進路先の確保(年50件以上を目指す)に努めるとともに、進路に関する情報提供(「進路だより」の発行)を年間5回以上行う。また、「高等部卒業生のアフターケア事業」を積極的に活用し、卒業生の就労先の訪問を行うことで、聞き取り調査等を行っていく。 ②JSP制度の活用を継続し、職業科(作業学習)において、外部専門家による評価(ソーシャルスキル、ワークスキル)を受けることにより、さらなる職業能力の向上及び維持につながる授業改善に取り組む。技能検定等での級や賞の取得で取組の成果を検証していく。 ③個々の生徒の職業能力上の強みや課題をステップアップシートに整理するとともに、学級及び作業班でその情報を共有し、学級活動や作業学習等において、統一した指導・支援に取り組む。また、進路相談支援部を中心に、各学級担任等が、シート全体の構成や生徒・保護者への振り返り表の利便性を検証し、より良いものに改善していく。 ④社会科、英語科等の各教科、特別の教科道徳、特別活動等において、SDGs等に関する内容を年間1回以上計画、実施する。 ⑤職業科(教科)において、就労支援の一環として余暇活動の充実に向けて取り組む。	B ①8月末現在、新規の実習・進路先の確保は、19件(新規開拓9件)、卒業生へのアフターケアは、58件。進路だよりの発行は、現在6回。過去の就労先等、保護者に情報提供できている。 ②JSP制度を活用し、各作業において外部講師を招き実施している。アビリンピックや技能検定に向けて練習し、一定の成果を上げることができた。【アビリンピック入賞】○ビルクレーシング:銀賞1名、銅賞1名、努力賞1名、○喫茶サービス:金賞1名、銀賞1名、銅賞1名、努力賞2名、○オフィスアシスタント:銀賞1名、【技能検定1級取得者】○清掃(5種目累計):13名、○接客:6名、○情報:1名 ③保護者面談で現場実習ステップアップシート(生徒用)をもとに共通理解を図り、今後の指導につなげている。 ④職業科において、ゴミの分別や資源を有効活用するための修復・別途の使用、協力関係における効率の意識付け等が行えている。 ⑤余暇活動アンケートは実施できていない。部活動や総合的な探求の時間等において、運動や制作活動、ダンスなどに取り組んでおり、興味の幅を広げることができている。	①引き続き就職アドバイザーと連携し、新規の実習・進路先の開拓を進めていくとともに、アフターケアにも適宜取り組んでいく。また、「進路だより」等により進路に関する情報を保護者に提供する。 ②2学期以降もJSP制度の活用により、生徒の職業能力(知識・技能等)の向上を計画的に進めていく。 ③引き続き、ステップアップシートの活用を進めていく。また、各生徒の作業学習の様子や目標について、学級担任と作業担当者との共通認識をさらに充実させる。 ④引き続き、SDGs等に視点を取り入れた授業を実施する。 ⑤2、3年生の社会科において、仕事と私生活の充実について学習し、リフレッシュ方法やストレス解消方法について考える学習を行う。余暇活動に関するアンケート調査の実施を検討する。				
			学校設定項目	地域貢献の推進	【現状】 ①地域清掃等の貢献活動を実施することができている。活動をする場所についても増やすことができている。地域住民からの感謝の言葉を受けることがあり、生徒のやりがいにつながっている。 ②「よさこい祭り給水ボランティア(万々商店街)」、「みかづきまつり(出店)」「みかづきふれ愛フェア」に参加することができた。 ③清掃活動と環境教育やSDGsとの関連についての学びは不十分である。 【評価指標】 ①②働く意義の理解(他者や社会への貢献) ・地域の清掃活動の継続、各イベントへの参加 ・取組に対するアンケートの実施(実施対象の拡大) ③清掃活動を通じての環境教育の実施	①地域の清掃活動やボランティア活動を実施していくことで、働くことの意義を体験を通して学ぶとともに、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。また、地域の方へアンケートを実施し、取組の充実及び生徒の自尊感情・自己有用感の向上に努める。 ②今年度も地域のイベントに積極的に参加する。 ③環境問題を意識しながら、SDGsの視点をもって商店街等の清掃活動に取り組むことで、ごみの分別方法やリサイクルの重要性についての学びを深めていく。	B ①地域の清掃活動は週2回程度、実施できている(専門学校・幼稚園・公民館・小学校・駅周辺等)。地域の方へのアンケートの実施はできていない。 ②ボランティア活動として「みかづきまつり」での出店・運営、「よさこい祭り清掃・給水ボランティア」で万々商店街でのごみ拾い・踊り子への給水活動を、一部の生徒に限られるが実施し、地域の方々に喜んでいただくことができた。 ③環境問題を意識しながら清掃活動を行い、環境を守ることを意識できるように取り組むことができている。	①今後も積極的に地域での清掃活動を実施し、障害者に対する理解啓発につなげることや生徒の自己効力感が得られるよう努める。 ②引き続き、地域イベント等に参加し、社会貢献の体験を積む機会を設ける。 ③今後も環境問題、SDGsを意識した取組を各教科等で取り上げながら実践していく。			
			働き方改革	ワーク・ライフバランスを考え、健康で活性化された職場づくりに努める。	【現状】 ①各分掌の業務内容、進捗状況を共有することにより、学校全体で様々な行事に取り組む事ができている。分掌による業務量の偏りは、少なくなってきた。分掌内で業務の引継ぎ等についてもできつつある。 ②指導案・教材等の共有化は、できつつある。また、情報担当者を中心にICT機器の活用事例の共有は進んできている。 ③グループウェアの活用はできるようになり、業務改善につながっている。電子起案については、まだ十分にはできていない。 【評価指標】 ①各分掌業務の平準化と引継ぎ体制の構築 ・適切な人員配置 ・学校全体での協力体制の構築 ・副部長職の育成(指導・助言体制) ②教材等のデータの共有財産化 ・教材データの保存方法及び活用の周知 ・ICT機器を活用した授業内容の共有 ③グループウェアの積極的活用、電子起案の活用 ④引き続き取り組んでいく。また、SC・SSWも積極的に活用していく。	①年度ごとに各分掌の業務内容の確認を行い、適切な配置人数に振り分ける。 ②「教材フォルダ」を引き続き活用し、改善につなげていく。また、ICT機器の活用事例の共有をさらに進めていく。 ③引き続きグループウェアの活用方法(文書收受、アンケート等)についての学習会を開催し、全教職員のスキルアップを図り、業務改善・軽減につなげていく。また、電子起案を進め、ペーパーレス化に取り組む。	B ①各分掌の業務割振りについては、職員数縮減に伴い、業務量に偏りが見られる。協力体制の構築は引き続き課題である。 ②業務の効率化のため、学習系PCの「教材フォルダ」内の整理に取り組んでいる。データ容量の削減のみならず、活用促進につなげる取組ができている。 ③電子起案等の仕方の研修会を5月に実施済。文書情報システムの活用が促進している。グループウェアを活用したスケジュール確認ができきている。	①管理職から積極的に助言を行い、分掌業務の平準化及び業務内容の見直しを進める。 ②「教材フォルダ」の充実を進めるとともに、利便性が高まる管理に取り組んでいく。 ③グループウェアの有効活用、文書情報システムの活用等について引き続き周知していく。			
不祥事防止に向けた取組	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 ・不祥事防止のため、教職員同士が気を付け合う風土はできつつある。リスク管理については、より抜かりなく行う必要があるため、管理職から定期的に声掛け、確認をしていく必要がある。不祥事発生時の対応については、フロー図はできているが、より実用的なものにするために検討を重ねる必要がある。 ○校内研修の実施回数 ・各学期ごとに実施する。 ○不祥事防止委員会の実施回数 ・年6回、実施する。	・不注事案発生時の防止に向けて、月1回の職員会で注意喚起を行う。 ・「よりよい職場風土づくり」を全教職員で意識しながら取り組む。 ・外部講師を招へいし、不祥事防止研修会を実施する。 ・6月、10月、2月を不祥事防止月間とする。	B ○不注事案発生時には教職員に注意喚起している。給食異物混入対応マニュアルを高知ろう学校と協議し作成。教員、保護者に共有済。学校防災マニュアル修正済 ○8月弁護士による研修会を実施済。また、講師を運営委員会メンバーで輪番し、テーマごとに毎月実施中(6回実施済) ○不祥事防止委員会を4回実施(4、5、6、8月)	○各種対応マニュアルやフロー図の見直しを引き続き検討する。 ○校内研修会を今後も継続実施することで、教職員の倫理観の堅持や不祥事防止への注意喚起、よりよい職場風土づくり等に取り組む。 ○引き続き不祥事防止委員会を開催する。また、不祥事防止月間に限らず、教職員全体の注意喚起を適宜行う。						